

自然誌 **だじり** 冬

Natural history

三重自然誌の会情報誌 139 号

2024年 3月

散らかっているレジ袋と見間違えたオニフスベ

2023年9月17日、斎宮歴史博物館（明和町）南側の史跡公園駐車場から竹神社跡に向かう途中、エノキやミズナラ、ナラガシワの林を通過しようとした時に乳白色のレジ袋のようなものがたくさん散在しているのが目につきました（写真-1）。カラスがゴミを漁ったのかもしれないと思いながら近寄ると、ソフトボールからバレーボールほどの大きさの球状の白色のキノコであることが判りました。キノコなのに傘も柄もないユニークな形をしているオニフスベです（写真-2）。数を数えると23個もあり、大きいものは直径21cmほどありました。表面が滑らかなものが多くみられましたが、なかには表面にヒビが入っているものがあります（写真-3）。翌18日にも観察すると乳白色の表皮が剥がれて内側にある黄褐色の層が見えているものがあることに気がつきました（写真-4）。さらに11日後の9月28日に観察すると、表面はくすんだ乳白色に変わり、表面がヒビ割れしているものが増えていました（写真-5）。成熟した胞子が風で散布される様子をみたかったのですが、その後は観察することができず、胞子が散布される過程を見届けることはできませんでした。また、12月15日に久しぶりに現地を訪れると、落葉が積もりオニフスベは跡形もなく姿を消していました（写真-6）。来年も大きなオニフスベが姿を見せるのか楽しみです。



写真 1；レジ袋のように見えるオニフスベ(2023.9.17), 2；オニフスベ(9.17), 3；表面にヒビが入る個体(9.17), 4；オニフスベ (9.18), 5；表皮が剥がれる個体 (9.28), 6；冬の様子 (12.15)

（中野 環：度会町大野木1711-1）

牧野富太郎の三重県における足跡

中 優

NHKテレビの2023年度前期の朝ドラは、高知県出身で日本植物分類学の父であった牧野富太郎をとりあげた。牧野は植物の採集や指導等で日本各地を訪れている。

私の生まれ故郷はこれまでの自然誌だよりに何度か登場させてきたが、三重県度会郡南勢町（現在は南伊勢町）押漕である。誰からだったかは記憶にないが、子供の頃に生まれ故郷である押漕に牧野富太郎が来たと聞いたことがあり、そのことはずっと頭の片隅にあった。そして今回朝ドラが放送されたことに加え、陸産貝類を通じてお近づきになった香川県在住の多田昭氏から牧野の行動を整理した本



写真1 植物採集行動録

（写真1）があることを教えていただいた。多田氏から本をお借りすることができたので、牧野の押漕への来訪の有無を確かめるとともに、あわせて三重県での牧野の足跡を整理することにした。

牧野の行動の記録（山本・田中2004, 2005）を整理した結果を表1に示したが、牧野が通過も含め三重県に来たのは14回（連続あるいは連続していたと想定できる期間は1回とした）あり、それ以外に三重県の関係者が牧野の自宅を訪ねたのが4回、三重県産の花（ジングウツツジ）が自宅に届けられたのが1回あり、三重県の知人にハガキを出したことも1回記録されている。

表1 三重県における牧野の行動

No.	年 月 日（年齢）	場 所	内 容	掲載頁 （※1）
1	明治14(1881)/4(20歳)	鈴鹿峠-四日市	東京での勸業博覧会の見物に行くため、神戸から四日市まで陸路、四日市から横浜まで外輪船若浦丸	13
2	明治35(1902)/4/14(41歳)		三重県白壁町(※2)の梅村甚太郎宅で一泊	65
3	明治38(1905)/6/15(44歳)	鈴鹿市安塚町	(※3)	70
4	同年/8	四日市市垂坂町垂坂山	(※3)	70
5	同年/10/4	四日市市西阿倉川・東阿倉川	アイナシ、マメナシ(=イヌナシ)※4	71
6	同年/10/6	伊勢	6日付スエ宛ての絵はがきを送っている	71
7	同年/11	四日市市	四日市海浜に行った記録あり	71
8	大正3(1914)/12/14(53歳)	伊勢市岩瀬町	※5 上村旅館から標本を送付	104
9	大正9(1920)/8/27(59歳)	亀山市亀山駅	奈良からの急行汽車を乗り換え名古屋へ	135
10	大正13(1924)/8/22(63歳)	四日市市から菰野町	花屋旅館で会員(※6)130名ほどに午前は講話、午後は菰野山の溪谷で採集、実地指導	180
11	大正13(1924)/8/23(63歳)	菰野町	仙丈岳(※7)に登り、往復の間実地指導	181
12	同年/8/24	四日市市	午前に諸学校から集めた標本を検定、午後閉会式、川崎光次郎宅に泊	181
13	同年/8/25	四日市市	梅村甚太郎が川崎宅の牧野を訪問	181
14	同年/8/26	四日市市東阿倉川	イヌナシの見分けに行く	181
15	同年/8/26	四日市市羽津山町	正法寺のイヌナシを採取	181
16	同年/8/26	四日市市高砂町	高松丸(大阪商船)に乗船して、那智勝浦へ	181
17	同年/8/27	鳥羽市	高松丸が鳥羽港に暫泊	181
18	同年/9/12	紀宝町成川	新宮市の太田氏とキンバイザサ等を採集	182
19	同年/9/14	紀宝町鮎田	新宮市の太田氏、高橋氏と布引ノ滝でリュウビンタイ等を採集	182
20	同年/9/15	紀宝町高岡	新宮市の太田氏と小学校付近の山でムカデランを採集	182
21	同年/9/18	新宮市	四日市市北町の村田吉太郎氏へハガキを出す	183
22	同年/10/30	伊勢市	東京駅を特急にて出発し、名古屋駅経由で伊勢市へ、神宮支庁篠田良二氏、中学校教員槌賀安平氏、小学校教員山中額蔵氏が出迎え、上村旅館に入り、遅れて神宮支庁篠田忠治氏と山本陸平氏が訪問	185
23	同年/10/31	伊勢市	槌賀安平氏、神宮支庁嘱託大西源一氏と外宮内の高倉山に登る	185
24	同年/11/1	伊勢市	神宮支庁で大宮司に面会、篠田氏等と磯神路で自生するジングウツツジを初めて見る	186

No.	年 月 日 (年齢)	場 所	内 容	掲載頁 (※1)
25	同年/11/2	多気町相可	西村廣休宅跡を篠田氏、槌賀氏、大西氏と訪れる	186
26	同年/11/3～4	伊勢市	外宮内、高倉山の調査	186
27	同年/11/5	伊勢市	外宮内、高倉山、天岩戸の調査	186
28	同年/11/6～8	伊勢市	外宮内、高倉山の調査	186
29	同年/11/9	伊勢市	篠田氏、槌賀氏、大西氏、篠原氏、山本氏と内宮からの朝熊道で朝熊山へ登るが時間超過で一字田へ下山後、神宮支庁へ立ち寄る	186
30	同年/11/10	伊勢市	調査を休む	186
31	同年/11/11～15	伊勢市	外宮内、高倉山の調査	186
32	同年/11/16	伊勢市	篠田氏、川崎氏、槌賀氏、篠原氏、山本氏と楠部町から朝熊山へ、金剛證寺、奥の院、山頂、豆腐屋旅館を経由して朝熊町に下山	186
33	同年/11/17～19	伊勢市	宿にて採集品整理	186
34	同年/11/20	伊勢市	内宮内、神路山の調査	186
35	同年/11/21～22	伊勢市	内宮内の調査	186
36	同年/11/23	松阪市大石町	槌賀氏、山中氏、川崎氏と大石不動院のムカデラン採集、帰路本居翁の造跡を見る	186
37	同年/11/24～25	伊勢市	内宮内、神路山の調査	186
38	同年/11/26	伊勢市	内宮内の調査、神路山南山から琴ヶ岡方面	186
39	同年/11/27	伊勢市	宿にて採集品整理	186
40	同年/11/28	伊勢市、南伊勢町(旧徳原村)押刈	川崎氏と自動車で鍛冶屋峠を越えて押刈に入り、出迎えた広出泰助氏と東一郎氏を伴い、細谷で採集した後、伊勢路の鳥羽屋旅館に投宿(※8)	186
41	同年/11/29	南伊勢町押刈	川崎氏、広出氏、東氏と鬼ヶ城で採集	186
42	同年/11/30	南伊勢町押刈、伊勢市	午前に徳原小学校にて、鬼ヶ城の植物について講話、伊勢市に帰る	186
43	同年/12/1	伊勢市	宿にて採集品整理	187
44	同年/12/2	伊勢市	外宮内写真撮影	187
45	同年/12/3	伊勢市	内宮内写真撮影	187
46	同年/12/4～9	伊勢市	宿にて採集品整理	187
47	同年/12/10	伊勢市	在宿	187
48	同年/12/11	伊勢市二見町三津	篠田氏、篠原氏とハマオギの探索	187
49	同年/12/12	伊勢市	外宮高倉山で写真撮影	187
50	同年/12/13	伊勢市	宿にて採集品整理	187
51	同年/12/14	伊勢市	在宿、午後河崎で和本購入	187
52	同年/12/15～16	伊勢市	宿にて採集品整理	187
53	同年/12/17～19	伊勢市	在宿	187
54	同年/12/20	伊勢市	在宿、帰京の用意	187
55	昭和2(1927)/9/22(66歳)	武蔵大泉(自宅)	伊勢神宮技師 篠田良二氏来訪	11
56	昭和3(1928)/7/4(67歳)		※9 加太の記載あり(三重県鈴鹿郡関町)	14
57	昭和5(1930)/11/30(69歳)	名張市赤目	大阪植物同好会会員と赤目四十八滝で採集(※10)	37
58	昭和9(1934)/4/20～21(73歳)	伊勢市	(※3)	72
59	昭和11(1936)/11/13(75歳)	伊勢市	(※3)	104
60	同年/11/14	伊勢市	採集品整理	104
61	昭和12(1937)/5/3(76歳)	伊勢市	伊勢神宮	108
62	同年/5/28	武蔵大泉(自宅)	伊勢よりジングウツツジの花が着く	109
63	昭和15(1940)/4/1(79歳)	武蔵大泉(自宅)	津市中新町 矢頭献一氏来訪	146
64	昭和26(1951)/5/19(90歳)	武蔵大泉(自宅)	山田耕作氏の名前がある(※11)	192
65	同年/6/6	武蔵大泉(自宅)	山田耕作氏の名前がある(※11)	192

※1頁のNo1～53は「明治・大正編」の頁、No54～64は「昭和編」の頁。※2白壁町を特定できなかった。※3内容の記載がない。※4兩種とも大正11年に国指定記念物(天然記念物)指定。※5大正13年同日に同じ記載があるがおそらく間違い(13年→3年)。※6会の名称は不詳。※7菰野町には仙丈岳は見当たらない。※8晩饗には広出、東両氏のほか徳原村村長奥村徳治郎氏も参加。※9この加太は前後の内容から和歌山県の加太のことで三重県ではないと思われる。※10田代晃二著の「田代善太郎日記・昭和編」では香落溪に行ったとある。※11伊勢市にいた山田耕作さんか？

牧野の三重県への来訪は大正13(1924)年に集中しており、来訪先は四日市市、菰野町、松阪市、多気町、伊勢市、南伊勢町、紀宝町の7市町に及んでいる。そして同年の来訪で滞在期間が一番長かったのが10月30日から12月20日までの伊勢市とその周辺域であり、そしてこの期間中に私が一番知りなかった押刈への来訪が記録されていた(表1, No.40～42)。押刈には11月28日から30日までの3日間訪れており、押刈の広出泰助氏と東一郎氏が同行して細谷と鬼ヶ城で植物の採集を行っている。細谷と鬼ヶ城は「暖地性シダ群落」として昭和3年に国の天然記念物に指定されており、この時の牧野の来訪が指

定を決定づけたことは想像にかたくない。牧野は押浜への来訪期間中は同町伊勢路の鳥羽屋旅館に宿泊しており、30日には穂原小学校で鬼ヶ城の植物について講話もしている。高名な学者による講演会の啓発効果はいかほどであったのであろう。

今回の記録を調べるにあたり、貴重な本を快く長期間お貸しいただいた多田昭氏に感謝する。

引用文献

山本正江・田中信幸2004. 牧野富太郎植物採集行動録。明治・大正編。高知県立牧野植物園・東京都立牧野標本館。200p.

山本正江・田中信幸2005. 牧野富太郎植物採集行動録。昭和編。高知県立牧野植物園・東京都立牧野標本館。208p.

(なかまさる：伊勢市小俣町本町1284)

.....

ノハラノイシノシタは三重県内で分布域を広げている？

中 野 環

「ノハラノイシノシタ」は、イシノシタ科に属する殻径2～3mmほどのアメリカ合衆国原産の陸産貝類です。現在では、ヨーロッパ諸国や日本などに移入しています。神奈川県と山口県で採集された標本に和名が新称され(Kano1996)、国内でその存在が知られるようになりました。これまで群馬県や東京都、静岡県、愛知県、三重県、兵庫県などでも確認されています。三重県では2008年に鳥羽市神島町で確認され、標本も図示されているのですが(早瀬ら2008)、死貝であるのか？ヒメコハクガイとの区別点が判らずにいました。2023年になり津市白山町川口、津市一志町波瀬、多気郡明和町斎宮で生息を確認したので報告します。

津市白山町川口の生息場所は道路沿いの法面で、コンクリート擁壁が施されている場所に堆積した



写真1 ノハラノイシノシタ 津市白山町川口
(2023.11.04)



写真2 ヒメコハクガイ 明和町斎宮
(2023.11.13)

広葉樹の落葉の下です。北側斜面で堆積層は30cmほどの厚さがありました。延長約20mまでは生息を確認しましたが、生息範囲については確かではありません。また、津市一志町波瀬や多気郡明和町斎宮でも生息を確認しました。斎宮では同所にヒメコハクガイも確認しました。短時間の調査のため生息を確認した範囲は延長数m程度でしたので、今後、正確な生息範囲を調べてみたいと思います。

ノハラノイシノシタの貝殻は無色透明で、殻表は平滑、螺旋塔は平らです。眼の色素を欠き、外套膜のほとんどは無色ですが、外套膜縁に紅色の斑が透けて見えます(写真1)。一方、ヒメコハクガイはノハラノイシノシタに類似しますが、貝殻は乳白色で、殻表に成長脈が目立ち、螺旋塔は膨らみます。また、眼の色素があります(写真2)。ノハラノイシノシタは、大きさが2～3mmと小さいので発見されにくいのですが、特徴を把握すればみつけることができるかもしれません。もしかすると既に三重県でも分布を広げているかもしれません。

引用文献

早瀬善正・木村昭一・川辺訓受2008. 三重県鳥羽市神島における陸・淡水産貝類調査。かきつばた, 33: 10-16.

Kano Yasunori1996. A revision of the species previously known as *Hawaiiia minuscula* in Japan and the discovery of the Helicodiscidae, the family new to Japan. The Yuriyagai (Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi), 4 (1/2) :39-59. 狩野泰則：日本産“ヒメコハクガイ”の再検討と本邦初記録のイシノシタ科(新称)。

(なかの たまき：度会町大野木1711-1)

塩崎哲哉氏撮影のマーキング・アサギマダラ，標識情報・2

中 西 元 男

御浜町上野のフジバカマ園にて（写真1），塩崎哲哉氏が撮影されたマーキング・アサギマダラの標識移動情報を報告する。貴重な記録をお知らせいただいた塩崎氏，標識情報追跡でお世話になったアサギマダラの会の藤野適宏氏，それぞれの個体に標識された移動調査従事の各位に感謝する。



写真1 フジバカマ園でアサギマダラと遊ぶ（研屋典子・撮影）

2023年10月26日，南牟婁郡御浜町上野，塩崎哲哉撮影。記述は，雌雄標識，←標識地・月日・標識者名の順。

- ♂ TSN9.24 990←富山県富山市朝日町蛭谷・9月24日・藤條好夫標識
- ♂ TSN9.25 4980←富山県富山市朝日町蛭谷・9月25日・長崎喜一標識
- ♂ オワセ10/11 大川←三重県尾鷲市古江町羽後峠・10月11日・大川善士標識
- ♂ ysk539 10.14 西山←和歌山県日高町西山・10月14日・崎山孝也標識
- ♂ 西山 Rio10/22←和歌山県日高町西山・10月22日・山口凉央標識
- ♂ UTU9.9FAL1983←長野県松本市美ヶ原林道・9月9日・Masuzawa 標識
- ♂ SIR9/10サクラ622←長野県飯田市上村しらびそ高原・9月10日・櫻井正人標識

同地における再捕獲（撮影）報告は，2021年に次いで今回で二度目である（中西2022）。私有地に観賞用に造成されたフジバカマ園では「マーキングをしないで下さい」と調査を規制するケースが多く，そもそもフジバカマによるアサギマダラの誘致は移動調査のための考案で，マーキング再捕獲をやってこそナンボだろう！という気分の虫屋はつい敬遠してしまう。そういうこだわりのない「クモ屋」の塩崎氏は，まめに撮影しては情報を提供して下さるので，誠に有難い。

ところでこの移動経路をみると，ちょうど紀伊半島の反対側，和歌山県日高町のものが2頭含まれている。アサギマダラは一般に秋には西南進移動とされているのに完全な逆走東進である。標識日が10月，既に低温期にさしかかろうという時期（西山 Rio は22日，下旬）だけに，これらが紀伊半島内陸，台高山脈の高標高地を越えてきたとは考え難い。山を下り海岸，岬に至った時点で本来西南方海上に飛び立つべきものの中に，優柔不断（？）で海岸線をウロウロするものがあるに違いない。多分そのまま紀伊半島南端，串本潮岬まで下ってしまい，それでもなお決心がつかず東岸を再北上してここに到着した（してしまった）のではなかろうか。

2021年の例では，さらに西方，京都市綾部のものが再捕獲撮影されている。結構でたらめな略南進で海岸に出，後は地形任せでさまようものがあるようだ。

引用文献

中西元男2022. 塩崎哲哉氏撮影のマーキング・アサギマダラ，標識情報. 自然誌だより，(131)，247.

（なかにし もとお：松阪市新町959）

東紀州に出現したジャンボ植物，ヨシススキ（その2）

山 本 和 彦

紀勢自動車道と熊野尾鷲道路は、一部を除いて 2010 年代に開通しています。この年代に開通した自動車道沿いでは、外来種のヨシススキと呼ばれる大型のイネ科植物が繁茂し、道路外にも逸出し、裸地や草地などで生育圏を広げ出しているという不都合な事態が起こっています。前号の自然誌日より紀伊長島地区におけるヨシススキの分布状況を報告しました（山本 2023）。本号はその続きで海山地区における現地調査の報告となります。今回は Google マップのストリートビューの利用により過去の生育状況が把握できた調査地もいくつかありました。

海山地区

紀勢自動車道沿いとその周辺、国道 42 号線沿い、海辺に面した県道沿いおよび銚子川下流の川原を主に調べました（図 1）。ヨシススキ生育地点は図 1 に示したように①～②①の 20 地点ほどありました。紀北町上里および船津を通る国道 42 号線より東側地域を調べただけなので、調査範囲を広くすれば生育地点はもっと増えると思います。以下にこの調査で把握できた各地点の生育状況について述べることにします。

- ・①、②紀勢自動車沿いの法面や道路沿い。ヨシススキが群生しているところとコシダなどのシダ植物や低木類が繁茂し、その中にヨシススキが散在しているところが見られました。ストリートビューでは自動車道が開通した 2014 年にも現在とほぼ同じ位置にヨシススキの群生地が認められます。また、ヨシススキがそれほど多く生えていない法面も見られます。自動車道開通直後にヨシススキが群生していたところは、現在でもその勢力は衰えずに大群落となり、小さな群落地では、コシダや低木類が徐々に繁茂し、ヨシススキが少なくなっているようです。
- ・③紀北町馬瀬_鯨。2024 年 2 月の調査では、紀勢自動車道の高架橋の下を通る県道 734 号線沿いの裸地に 50 株前後、その近くを流れる大舟川の中や川沿いの道路に多数生育していました。2014 年のストリートビューでは裸地や大舟川には認められませんでした。2019 年には裸地に背丈の低いヨシススキが 50 株前後、大舟川内に 10 株前後生育していました。2021 年の画像では裸地に生育してい

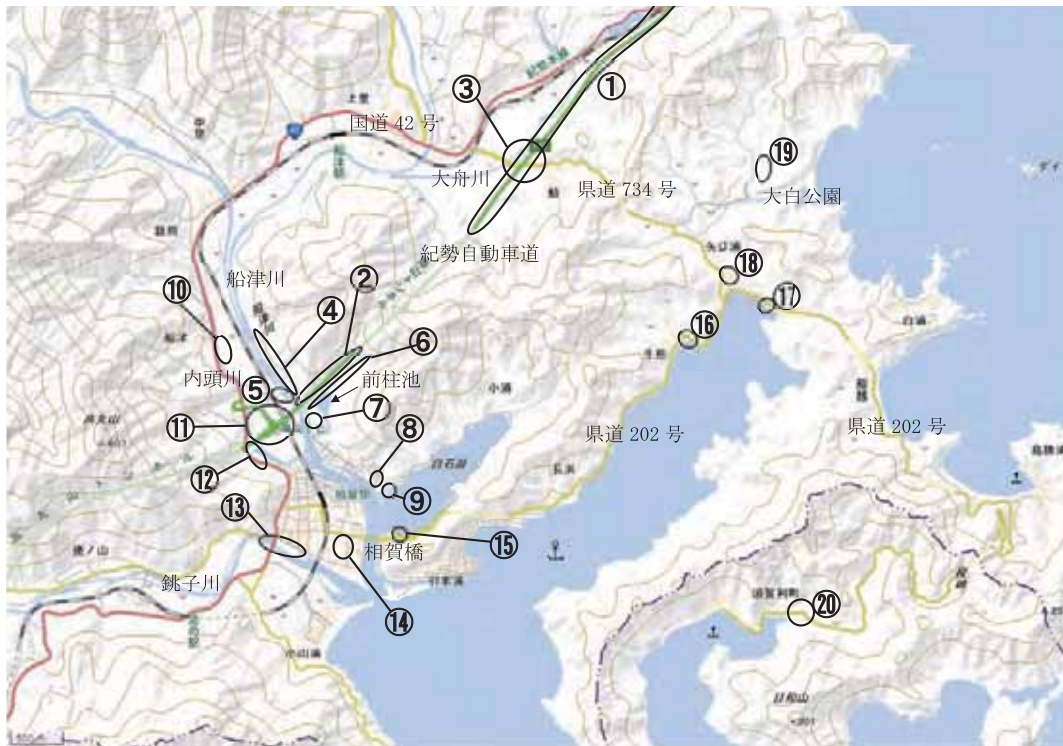


図1 海山地区で確認されたヨシススキ生育地点。①、②紀勢自動車道沿い、③紀北町馬瀬_鯨、④、⑤紀勢自動車道船津川橋下の船津川兩岸、⑥～⑨船津川下流の左岸、⑩～⑫海山IC周辺および国道42号沿い、⑬銚子川川原、⑭相賀周辺、⑮～⑱相賀～矢口浦、⑲大白公園周辺、⑳須賀利町（尾鷲市）

た個体は大きく成長し、川内の個体数は倍程度に増加していました。調査地点周辺には2015年から2018年の間に侵入したものと推測されます。

- ・④、⑤紀勢自動車道船津川橋下の船津川両岸。左岸側の④には2023年現在30株程からなる小群落が見られます。ここは自動車道が開通した2014年のストリートビューにはヨシススキは見られませんが、筆者は2015年には若干数のヨシススキを川沿いに確認しています。また、2020年前後から橋下より上流700mまでの川沿いや道路の法面にも出現しています。右岸側の⑤は2018年頃まではスギ・ヒノキ林でしたが、その後伐採されソーラーパネルが設置され、2021年にはパネルの付近にヨシススキの群落ができています。
- ・⑥～⑨④地点より船津川下流の左岸。⑥の前柱池上流部の岸边には大きな群落が発達しています。筆者は2017年に確認していますが、現在も大群落となっています。⑦は裸地ですが、2014年のストリートビューにはヨシススキは写っていないので、まだ侵入していなかったと推測されます。2020年の調査では20株ほど、2023年には30株ほどに増えています。⑧、⑨は船津川河口の裸地になります。2014年のストリートビューを見ると、2地点とも裸地で植生のない状況となっていますが、2017年の筆者の調査では10株ほど、2023年には30株ほどに増加しています。
- ・⑩～⑫海山IC周辺および国道42号沿い。⑩は国道42号線沿いを流れている内頭川と呼ばれている小さな河川の中で数本散在していました。ここはいつ頃侵入したかは不明です。⑪は海山IC付近の湿地帯ですが、湿地の埋め立て造成地には現在60株ほどのヨシススキが繁茂しています。⑫は国道42号線沿いで、2024年現在100mほどの距離に20株ほど生育しています。この区間はストリートビューから2019年頃に出現していることが分かりました。
- ・⑬銚子川川原。2023年現在、国道42号銚子橋より上流100mと下流400mほどの区間に100株ほど生育。ヨシススキがいつ頃侵入したかは不明です。
- ・⑭相賀駅より南東に500m付近一帯。家屋間の空地に2023年現在20～30株ほど生育しています。この一帯は2019年には成長した株が数本程度ストリートビューに写っています。2014年には全く見られませんでしたので、自動車道開通後に出現したと推測されます。
- ・⑮～⑱相賀橋東～矢口浦(県道202号沿い)。⑮相賀橋の東側近くですが2021年までは見られませんでした。2023年に1株確認しました。⑯～⑱も県道沿いの草地および裸地に出現しています。個体数は現在あわせて5株前後となっています。いつ頃侵入したのかは不明です。
- ・⑲大白公園周辺。大白池より北方約250m付近に最近造成された埋め立て地には30株ほどのヨシススキが生育しています。裸地は広いことから今後さらに個体数は増加するものと推測されます。ここもいつ頃侵入したのかは不明です。
- ・⑳尾鷲市須賀利町。ここは海山地区の属す紀北町ではなく尾鷲市になりますが、同じ県道202号が通り調査地域に近い町です。やはりここにも1株だけですが道沿いの裸地に生育していました。2024年2月のことです。2020年頃には須賀利町では見ていなかったもので、それ以降に侵入してきたものと思われます。

ヨシススキは他の植物がそれほど生えていない裸地を好むようで、海山地区でも紀伊長島地区でもそのような立地にまとまった群落が見られました。

定着すると成長も早く海山IC付近(図1の⑪)では高さ3mにもなる大株が育っています。昨年は夏の降水量が少なかったためでしょうか、銚子川の川原にも大きな群落が発達しています(図2)。今後、岸边まで勢力を拡大することが懸念されます。次回は尾鷲地区を報告します。

今回の報告をまとめるにあたり塩崎哲哉氏にはGoogleマップのストリートビューの利用についてご教示いただきました。また調査にあたっては木許勝弘氏にお世話になりました。お二人に厚くお礼申し上げます。

引用文献

山本和彦 2023. 東紀州に出現したジャンボ植物、ヨシススキ(その1). 自然誌だより, (138), 6-8.



図2 銚子川に侵入したヨシススキ。(2023年12月3日)

(やまもと かずひこ：尾鷲市小川西町8-40)

神島のシロヘリハンミョウおよび菅島で観察した植物

2022年7月9、10日に鳥羽市神島町神島および鳥羽市菅島町菅島で実施された生物調査において採集・観察したシロヘリハンミョウおよび植物を記録しておく。

神島調査において、シロヘリハンミョウを確認した。海岸の砂浜に棲む同種は危険を感じると海にも飛び出し、いったん目で追えなくなるが、しばらくすると近くの砂浜に戻ってくる(写真1, 2)。

菅島は紅葉するアサマツゲが有名だが、イブキシヤコウソウの海岸環境への適応品種であるハマジャコウソウ等も観察できる(写真3)。



写真3 ハマジャコウソウ，菅島，10日



写真1 シロヘリハンミョウ（オス），神島，9日



写真2 同（メス）

(長谷川好昭：〒517-0011鳥羽市鳥羽1丁目23-4)

事務局から

○三県交流フィールドワーク「奥香肌峡」のご案内

案内を同封しましたので、奮ってご参加ください。楽しいですよ。

○発送方法の変更

ヤマト運輸が、経営合理化の一環としてメール便を日本郵便に委託するという記事をご覧になった方もおみえかと思います。当会は、これまで会誌等発送はメール便を利用しており、一通あたり84円であったのが一気に250円以上に値上げされることになったため、今号から郵便で送るようにしました。三つ折りにすると94円、折らないで送ると120円になります。折る手間（発送は一人でやっています）や折り目がつくことを考えて後者でお届けしたいと思いますので、ご了解ください。

編集後記

朝ドラって多くの方に視聴されているのでしょうか。牧野がモデルのドラマということで、植物や自然に興味を持つ子どもが増えればよいなと思ってからふと気づいたのですが、子どもはもちろん子育て世代も朝にテレビをみている時間はないですよね。次号は6月発行です(善)。

自然誌だより139号 Mie Natural History Research Group News, No.139

発行日 2024年3月20日

事務局 〒515-0835 松阪市日丘町1386-17

清水善吉方 三重自然誌の会

<http://www.zb.ztv.ne.jp/mie-shizenshi>

発行者 三重自然誌の会

郵便振替口座 00800-5-17842 三重自然誌の会

年会費 1,500円(個人)/2,000円(家族)

e-mail:shimizuzenkichi@gf7.so-net.ne.jp